

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 令和元年8月7日

【四半期会計期間】 第96期第1四半期(自平成31年4月1日至令和元年6月30日)

【会社名】 東洋精糖株式会社

【英訳名】 Toyo Sugar Refining Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 小島康之

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋小網町18番20号

【電話番号】 (03) 3668-7871 (代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 立澤一郎

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋小網町18番20号

【電話番号】 (03) 3668-7871 (代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 立澤一郎

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第95期 第1四半期 連結累計期間	第96期 第1四半期 連結累計期間	第95期
会計期間	自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日	自 平成31年4月1日 至 令和元年6月30日	自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日
売上高 (百万円)	3,539	3,593	13,677
経常利益 (百万円)	258	260	1,035
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	181	184	727
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	210	165	761
純資産額 (百万円)	8,293	8,791	8,844
総資産額 (百万円)	11,450	11,053	11,486
1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	33.24	33.89	133.46
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	72.4	79.5	77.0
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	133	137	1,479
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3	16	15
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	135	184	993
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	2,355	2,523	2,861

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社に異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益が高水準を維持すると共に、設備投資の増加や雇用・所得環境の改善を背景に、緩やかな景気の拡大が続いております。一方で、世界経済は米中貿易摩擦や中東情勢の緊迫化など不透明さが増しており、景気の先行きが懸念される状況にあります。

このような状況下、当社グループは、FSSC22000規格に基づく食品安全管理のもと、引き続き安全・安心な製品をお客様にお届けすると共に、販売の拡大や生産効率向上等により、収益の改善に努めてまいりました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績につきましては、売上高3,593百万円(前年同期比1.5%増)、営業利益238百万円(前年同期比0.8%増)、経常利益260百万円(前年同期比0.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益184百万円(前年同期比1.9%増)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

砂糖事業

販売量は天候不順の影響があったものの大型連休の需要等により前年同期を上回り、売上高は3,290百万円(前年同期比1.3%増)となりました。営業利益は、製造コスト等が上昇したものの販売量の増加により338百万円(前年同期比4.1%増)となりました。

機能素材事業

飲料・健康食品および化粧品原料の販売量は、インバウンド需要等の影響を受けた前年同期に比較して鈍化傾向にあるものの、輸出向けが増加したことから、売上高は302百万円(前年同期比4.1%増)となりました。営業利益は、生産効率の向上により45百万円(前年同期比4.2%増)となりました。

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は、現金及び預金やたな卸資産の減少などにより、前連結会計年度末に比べ433百万円減少し11,053百万円となりました。負債合計は、支払手形及び買掛金や未払法人税等の減少などにより、前連結会計年度末に比べ379百万円減少し2,262百万円となりました。純資産合計は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上があるものの、配当金の支払やその他有価証券評価差額金の減少などにより、前連結会計年度末に比べ53百万円減少し8,791百万円となりました。この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の77.0%から79.5%となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物

当第1四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ、338百万円減少し2,523百万円(前連結会計年度末比11.8%減)となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、使用した資金は137百万円(前年同期は133百万円の獲得)となりました。主に税金等調整前四半期純利益の計上260百万円などがあったものの、仕入債務の減少196百万円や法人税等の支払112百万円及びその他支出50百万円などがあったことによります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、使用した資金は16百万円(前年同期比411.4%増)となりました。主に有形固定資産の取得による支出9百万円及び無形固定資産の取得による支出6百万円などがあったことによります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、使用した資金は184百万円(前年同期比35.5%増)となりました。主に配当金の支払183百万円などがあったことによります。

資本の財源及び資金の流動性

当社グループの資本の財源及び資金の流動性は、営業活動等に必要な運転資金を確保するため、手元流動性比率が2ヶ月程度となるよう資金の適正額を維持することとしております。当第1四半期連結累計期間末の資金の残高は、2,523百万円であり、金融機関との間で締結している当座貸越契約による短期借入金の実行残高は500百万円であります。

また、投資活動の必要資金は原則自己資金にて賄っております。必要に応じて金融機関から調達も行いますが、当第1四半期連結累計期間末の長期借入金の実行残高はありません。

(3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は、36百万円であります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	18,000,000
計	18,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (令和元年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (令和元年8月7日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,456,000	5,456,000	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当社に おける標準となる株式。 また、単元株式数は100株で あります。
計	5,456,000	5,456,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
令和元年6月30日		5,456,000		2,904		

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載しておりません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないことから、直前の基準日(平成31年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成31年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,200		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,447,600	54,476	同上
単元未満株式	普通株式 5,200		同上
発行済株式総数	5,456,000		
総株主の議決権		54,476	

- (注) 1. 上記「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が200株(議決権2個)含まれております。
2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式44株が含まれております。

【自己株式等】

平成31年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 東洋精糖株式会社	東京都中央区日本橋 小網町18-20	3,200		3,200	0.05
計		3,200		3,200	0.05

2 【役員】の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当第1四半期累計期間において役員の変動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成31年4月1日から令和元年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成31年4月1日から令和元年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成31年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (令和元年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,861	2,523
受取手形及び売掛金	2 1,447	2 1,497
商品及び製品	1,033	1,030
仕掛品	169	117
原材料及び貯蔵品	690	664
短期貸付金	905	905
その他	49	70
貸倒引当金	14	14
流動資産合計	7,143	6,794
固定資産		
有形固定資産	1,354	1,339
無形固定資産	24	23
投資その他の資産		
投資有価証券	913	893
長期貸付金	1,689	1,689
退職給付に係る資産	68	69
その他	286	240
貸倒引当金	5	5
投資その他の資産合計	2,954	2,888
固定資産合計	4,333	4,251
繰延資産	9	7
資産合計	11,486	11,053

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成31年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (令和元年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,015	818
短期借入金	500	500
未払法人税等	130	31
賞与引当金	73	34
その他	478	464
流動負債合計	2,198	1,848
固定負債		
役員退職慰労引当金	61	42
退職給付に係る負債	336	329
資産除去債務	1	1
その他	45	40
固定負債合計	444	413
負債合計	2,642	2,262
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,904	2,904
利益剰余金	5,810	5,777
自己株式	4	4
株主資本合計	8,710	8,677
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	119	99
繰延ヘッジ損益	-	0
退職給付に係る調整累計額	14	13
その他の包括利益累計額合計	133	113
純資産合計	8,844	8,791
負債純資産合計	11,486	11,053

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成31年4月1日 至令和元年6月30日)
売上高	3,539	3,593
売上原価	2,813	2,835
売上総利益	726	757
販売費及び一般管理費		
販売費	247	262
一般管理費	241	257
販売費及び一般管理費合計	489	519
営業利益	236	238
営業外収益		
受取利息	6	6
受取配当金	2	2
持分法による投資利益	8	8
その他	5	4
営業外収益合計	24	22
営業外費用		
支払利息	1	0
その他	0	0
営業外費用合計	1	0
経常利益	258	260
税金等調整前四半期純利益	258	260
法人税、住民税及び事業税	34	24
法人税等調整額	43	51
法人税等合計	77	75
四半期純利益	181	184
親会社株主に帰属する四半期純利益	181	184

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成31年4月1日 至令和元年6月30日)
四半期純利益	181	184
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	27	19
繰延ヘッジ損益	0	0
退職給付に係る調整額	0	0
その他の包括利益合計	29	19
四半期包括利益	210	165
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	210	165

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成31年4月1日 至令和元年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	258	260
減価償却費	17	17
貸倒引当金の増減額（は減少）	0	0
賞与引当金の増減額（は減少）	35	39
退職給付に係る資産の増減額（は増加）	2	3
退職給付に係る負債の増減額（は減少）	7	6
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	1	18
受取利息及び受取配当金	9	9
支払利息	1	0
持分法による投資損益（は益）	8	8
売上債権の増減額（は増加）	85	49
たな卸資産の増減額（は増加）	93	81
仕入債務の増減額（は減少）	33	196
未払金の増減額（は減少）	12	5
その他	77	50
小計	207	28
利息及び配当金の受取額	2	2
利息の支払額	1	0
法人税等の支払額	75	112
営業活動によるキャッシュ・フロー	133	137
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	12	9
無形固定資産の取得による支出	2	6
投資有価証券の取得による支出	0	0
貸付金の回収による収入	0	0
敷金の差入による支出	7	-
保険積立金の解約による収入	20	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	3	16
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	0	-
配当金の支払額	135	183
リース債務の返済による支出	-	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	135	184
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	5	338
現金及び現金同等物の期首残高	2,361	2,861
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,355	2,523

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第1四半期連結累計期間(自平成31年4月1日至令和元年6月30日)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第1四半期連結累計期間(自平成31年4月1日至令和元年6月30日)

該当事項はありません。

(追加情報)

当第1四半期連結累計期間(自平成31年4月1日至令和元年6月30日)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 偶発債務

債務保証

下記の会社の銀行借入について債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成31年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (令和元年6月30日)
(関係会社)借入保証 太平洋製糖(株)	387百万円	375百万円

2. 四半期連結会計期間末日の満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第1四半期連結会計期間の末日は金融機関の休日であったため、次の満期手形が当第1四半期連結会計期間末日の残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成31年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (令和元年6月30日)
受取手形	2百万円	0百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成31年4月1日 至令和元年6月30日)
現金及び預金勘定	2,355百万円	2,523百万円
現金及び現金同等物	2,355百万円	2,523百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年5月10日 取締役会	普通株式	163百万円	30.00円	平成30年3月31日	平成30年6月4日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成31年4月1日 至 令和元年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
令和元年5月14日 取締役会	普通株式	218百万円	40.00円	平成31年3月31日	令和元年6月3日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額には記念配当10円が含まれております。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第1四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	砂糖事業	機能 素材事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,249	290	3,539	-	3,539
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	-	0	0	-
計	3,250	290	3,540	0	3,539
セグメント利益	325	43	369	132	236

当第1四半期連結累計期間(自 平成31年4月1日 至 令和元年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	砂糖事業	機能 素材事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,290	302	3,593	-	3,593
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	-	0	0	-
計	3,291	302	3,593	0	3,593
セグメント利益	338	45	384	145	238

(注)1. セグメント利益の調整額は、主として各報告セグメントに配分していない全社費用(一般管理費)であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引の四半期連結会計期間末の契約額等は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成31年4月1日 至令和元年6月30日)
1株当たり四半期純利益	33.24円	33.89円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	181百万円	184百万円
普通株主に帰属しない金額	該当事項はありません。	該当事項はありません。
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益	181百万円	184百万円
普通株式の期中平均株式数	5,452,784株	5,452,756株

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

令和元年5月14日開催の取締役会において、平成31年3月31日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり期末配当を行うことを決議しました。

配当金の総額	218百万円
1株当たりの金額	40円00銭
	(普通配当 30円00銭 記念配当 10円00銭)
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	令和元年6月3日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

令和元年 8 月 7 日

東洋精糖株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 上 野 直 樹

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 前 田 啓

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東洋精糖株式会社の平成31年4月1日から令和2年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成31年4月1日から令和元年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成31年4月1日から令和元年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、東洋精糖株式会社及び連結子会社の令和元年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。